

やまなしエネルギービジョン

基本理念
■ 強い経済・しなやかな暮らしを支える
エネルギー社会の実現

目標年度
■ 2030年度

目指すべき姿

- 県民生活
環境に優しいライフスタイルの定着
- 産業
エネルギー供給基盤の強化
関連産業の振興
- 地域
地域貢献型、地域循環型エネルギー利用の進展

山梨県が目指す水素社会

基本理念
本県の特性を生かした水素エネルギー社会の実現

目標年度
2030年度

目指すべき方向

- 水素エネルギーの利用拡大
- CO2フリー水素サプライチェーンの構築
- 水素・燃料電池関連産業の振興

・全国有数の日照時間の長さ
・レベルの高い研究開発拠点の集積
(山梨大学、産業技術センター、米倉山電力貯蔵技術研究サイト等)

水素社会実現の意義

エネルギーセキュリティの向上
■ エネルギー自給率の向上などにより、エネルギーセキュリティの向上に期待

省エネルギーの推進
■ 燃料電池の利活用の拡大が大幅な省エネルギーに寄与

環境負荷の低減
■ 利用段階でCO2を排出しない水素は、環境負荷の低減に貢献
■ 再生可能エネルギー由来水素の普及により、一層のCO2削減に貢献

産業の振興
■ 水素エネルギー利活用分野における日本の競争力は高く、産業振興・地域活性化に貢献

目標と工程

水素エネルギーの利用拡大

2016	2020	2025	2030
水素エネルギーの普及・啓発			
・FCV試乗体験、FCバス試乗会、東京2020オリ・パラを通じたPR 新たな情報発信拠点づくり			
・米倉山等のある甲府市に加え、新たな情報発信拠点の検討			
家庭用燃料電池(エネファーム)の普及			
582台	量産効果による更なる低コスト化		34,000台
・メリットの普及啓発、助成制度継続の検討			
業務・産業用燃料電池の導入・普及			
4台	低コスト化・高耐久化に向けた技術開発		12台
・新設県有施設への導入検討、県内事業者への展開			
燃料電池モビリティ(FCV・FCバス)の導入・普及			
22台	低コスト化に向けた技術開発	FCV 1,300台	
-	水素ステーションの普及		FCバス 10台
・FCVの公用車への導入、リニア駅とのFCバスのアクセス検討			
水素ステーションの整備			
1箇所	低コスト化、更なる規制見直し		2箇所増設
・事業者への働きかけ、支援のあり方検討			

CO2フリー水素サプライチェーンの構築

2020	2025	2030
〈山梨発のP2G(Power to Gas)システム〉		
・太陽光発電の不安定な電力で水素を製造し、電力システムの安定化対策を図りつつ、さらに、その水素を地域社会で利用		
・基盤技術の確立と、2030年以降の本格的な導入を目指す		
ゆめソーラー館 やまなしでの実証 (2012.1~)		
・太陽光発電の電力で製造した「水素」による電力を館内で利用		
成果を展開		
大規模な水素供給システム(P2Gシステム)の確立 (2016.9~)		
・純水素燃料電池(5kW×3台)をゆめソーラー館やまなしに増設、業務・産業分野での導入・普及を目指す		
・大規模で安全安価な水素供給体制の構築を目指し、大型の水電解装置を開発		
・米倉山で製造した水素を県内の民間施設等で利用する社会実証		
・東京2020オリ・パラでの水素利用を目指す		
基盤技術を実用化		
CO2フリー水素供給システムの確立 (2030頃を目途)		

水素・燃料電池関連産業の振興

2020	2025	2030
Innovation 山梨大学の技術シーズ等の活用	・技術移転 ・共同研究等	県内企業による事業化
Incubation 新たなアプリケーションの事業化	・ビジネスモデル検討等	燃料電池メーカーの創出
Integration 部品供給網の確立	・ビジネスマッチング等	FCV等への部品供給網の確立
Invitation 企業・研究機関誘致	・企業等訪問等	企業等の誘致による基盤強化
アウトカム(2030年)		
県内の水素・燃料電池関連産業全体で 参入企業200社 売上1,000億円 雇用者数5,000人		
具体的な道筋は「やまなし水素・燃料電池バレー戦略工程表」に記載		

環境負荷の低減

県内産業と連携

やまなし水素・燃料電池バレーの実現

日常の生活や産業で水素を利用する安全・安心で人が集う魅力ある地域社会